アメリカ英語における意味変化

北村正司

言語は社会集団の協力と相互作用の手段であって，それを用いる社会の所産である。したがつて，その社会の文化，習俗，心理の特徴を反映する。17世紀の初頭に，英国の植民者たちによつて，アメリカ大陸の大西洋岸に伝えられた英語は，アメリカの社会の発展とともに，英語の基本的伝統を維持しながら，特有な文化の発達の諸相を忠実に反映して，イギリスの英語に見られないさまざまな特色を持つようになつた。その特色は，いろいろな程度において，アメリカ英語の体系の全分野にわたつて発生したが，語彙の領域において顕著なものがある。新大陸における，異なつたそして発展して行く生活環境の必要に応ずるため，人々が一方においては，新しい語の形成と他の言語の借用を行い，他方においは，意味変化によつて従来の語の適用を講じた。この小論においては，アメリカ英語を意味変化の角度から観察し，その変遷過程を促進した言語的，文化的，社会的な原因と事情を明かにしてみたいと思う。

(1)

語の意味変化の強力な要因としては，まず意味の重点の変化 (Shift of Semantic Emphasis) をあげなければならない。語の意味が理解される基礎は文脈の総体にある。つまり，Fries がいつていように[1]，言葉による文脈すなわち言語文脈と外界の文脈すなわち場面とが，語の意味を支配する。たとえば，glass は，文脈によつて，ガラス，コップ，鏡などの意味のうち一つだけの意味に制限される。また，同じく horse といつても，農夫，競馬騎手，荷馬車屋には，それぞれ異つた意味合いを伝えるし，動物学の講義と農場といつたよ

(1) Fries, Charles C. Teaching and Learning English as a Foreign Language. pp. 55 and 56.

うに，この語が用いられる時と所によつても意味合いが異なる。こうしたいろいろな文脈において，概念の一面が強調されると，他の面は犠牲となる傾向がある。つまり，語の概念は多く合成的なものであるから，ある特定の文脈に，頻繁に用いられると，その一面だけが強調され，意味変化の強い原動力となる。Sturtevant は動詞 dress を例に引いている。[1] この語は元来 make straight の意味であつて，その意味は，dress the ranks, dress timber の句に残つている。後者は余分なところを切り捨てることを含意するので，この面が強調されて，dress hides, dress poultry, dress a vine の用法が発生し，これらの句が仕上げ，整備の意を含むところから，その面に重点が置かれ，dress a salad, dress a wound, dress the hair の句が生じた。これらの表現 特に dress the hair には装飾の含意があるので，その面が dress a shop window, dress one's wife well の用法に強調され，ついに dress oneself の句が生じた。

さて，アメリカにおいて，植民者たちが，新しい環境の新しい生活に適応するため，上述の過程によつて，意味変化を与えた語は非常に多い。たとえば，pond は人工の池から，類似点の強調によつて，自然の小さな湖の意を，barn は「なや」を家畜のためにも使用したところから家畜小屋の意を生じた。また lot は，土地の配分法にくじを用いたところから土地の区劃の意を生んだ。

意味の重点の変化による意味変遷の結果として生ずる傾向には，まず意味の拡大，一般化がある。freight は英国では水上輸送貨物であるが，アメリカにおいては，輸送貨物という類似点が強調されて，水陸の差別が忘却され，この語は，陸上輸送貨物さらに現今では空中輸送貨物をも意味するようになつた。freight が，陸上輸送貨物に意味領域を拡大した事情については，Marckwardt 教授が，次の観察を下している。"Early in the nineteenth century *freight* came to be applied in the United States to merchandise dispatched overland as well, quite possibly because long distance shipping from one

(1) Sturtevant, E. H. Linguistic Change. p. 87.

part of the country to another involved hauling by land as well as by water. Transporting a load of goods from New York to St. Loius, for example, around 1840 might well have involved river packet, canal boat, short railroad hauls, and pack train."[1] つまり，広大なアメリカ大陸における長距離輸送が，鉄道を含めて水陸各様の運送を必要としたことが，この語の意味変化の文化史的原因と推測しているわけである。しかし，この語が陸上運輸貨物の意で用いられた最初の用例の年代を，Mathews の A Dictionary of Americanisms に求めれば1813年である。アメリカの鉄道の起源については，Bogart and Kemmer によると，"The first railroad in the United States was the Baltimore and Ohio, begun in 1828 and opened for traffic on a short stretch in 1830,…"[2] とあるから，freight のこの意味への拡大は，鉄道開通以前に始っていたものと考えられる。さて，鉄道は，アメリカおよび英国における語の意味領域の拡大に貢献した。英国では鉄道の初期に駅伝乗合馬車用語の coach, driver, guard, booking-office などの利用が始つた。また，アメリカでは，berth, engineer, caboose などの海運用語が利用された。もつとも，depot, baggage など海運用語と関係のない多くの語も用いられており，アメリカの鉄道用語も，単純な原則によつて作られたものでないことは明瞭である。

depot は 18 世紀の終り頃，フランス語から英語に入つたもので，貯蔵所，倉庫，兵站部，捕虜収容所の意味となつた。鉄道に関しては，終点の貨物駅を指すために適用されたが，アメリカでは終点ばかりでなく，全線にわたる，貨物駅の意に拡大して用いられ，人口のまばらな地方では，同じ建物が，貨物保管ばかりでなく，旅客の便にも供された結果，旅客駅をも意味するようになり，かつては鉄道の駅を示す普通の語であつた。[3] このように語によつては，その一生のうちに，意味の特殊化と一般化が，こもごも発生することもある。

(1) Marckwardt, Albert H. American English. pp. 104 and 105.
(2) Bogart, Ernest L. and Kemmer, Donald L. Economic History of the American People. p. 284.
(3) Marckwardt, A. H. Ibid. pp. 38 and 39.

上記の depot が貯蔵所の意から鉄道の停車場の意に変遷した過程と類似の変化をしたものに store（商店）がある。アメリカにおいては，store は元来倉庫で売買行為が行われた事実に始まり，意味領域が特殊化して，遂に別箇の意味に発展したものである。[1] この過程に見られるように，意味の重点の変化は，意味領域の縮少，特殊化を招来する場合もある。たとえば car は，もともと一般に wheeled vehicle を意味したが，今日ではこのような広い意味に用いられることが少なくなつた。アメリカにおいては，19世紀の初期から，鉄道や電車の発明に伴い，これらの軌道に用いられる車輛を意味するようになり，passenger-car, freight-car, coal-car などの複合語を生じた。また the cars は，1910 年頃までは一般に汽車を指すのに用いられたものである。"Watch out for the cars." の掲示は，自動車運転者に対する警告として用いられた。[2] その後自動車の発達にしたがつて，この語は automobile の意に用いられることが圧倒的に多くなつた。car の意味変化の過程は，一つの発明が他の発明を言語の上においても排除して行く傾向を実証している。

(2)

前節において，語の意味領域の拡大について論ずるところがあつたが，意味の拡大を起す有力な要因には語の比喩的用法がある。Sturtevant は，意味変化が意味の重点の変化によるのか，比喩的語法によるのかを区別することはしばしば不可能であるといつているが，[1] これは意味変化を別箇の角度から観察するものであつて，当然のことであり，衝突するものではない。

比喩による意味変化のうち，最も一般的なものは隠喩（Metaphor）であつて，アメリカにおいて，植民者たちがこの過程によつて，多くの在来の語に新しい意味を附加して行つたのも自然である。海岸や河などの絶壁を意味する

---

(1) Greenough, J. B, and Kittredge, G. L. Words and Their Ways in English Speech. p. 134.

(2) Partridge, E. and Clark, J. W. British and American English since 1900. p. 235.

(3) Sturtevant, E. H. Linguistic Change. p. 90.

bluff は，元来船首の垂直な状態を形容する海洋語の bluff の意味変化したものである。この語は，まず bluff land (The east side is a *bluff land.* —A Dictionary of Americanisms.) のように形状の相似から意味を拡大して用いられ，次に短縮によつて絶壁の意を生じたものと考えられる。また「棒などにつけられたV字形の刻み目」の意の notch は「山間の狭い通路やそのような通路の最も狭い部分」の意を生じた。divide は分水界の意に用いられ，ロッキー山脈は Great Divide または Continental Divide と呼ばれるようになり，転じて口語で die の意味の go over the divide, cross the divide, cross the Great Divide や across the Great Divide (幽明境を異にして) の隠喩的成句を生じた。これらの句のように，隠喩は口語や俗語に多く用いられている。アメリカの都市生活の特色である高層アパートの居住者を cliff-dweller ということがあるが，これはアメリカ西南部のインディアンが洞窟や絶壁の岩たなに住居する風習を持つために cliff-dweller と呼ばれるところから，意味を転じたものである。動物に関するものでは，*bark up* the wrong tree (全く見当違いなことをする), *crow* over one's enemy (敵に勝ち誇る), *cub* reporter (新米新聞記者) などがある。そのほかのものの中には，gold brick, gold digger, side track など幾多の例がある。gold brick はれんが型または棒状の金塊から，詐欺師の用いるその偽造品，さらに，にせ物の意に発展し，sell one a gold brick (詐取する) の句を生じ，また gold brick は同様の意味で動詞としても用いられるようになつた。gold digger は採金者特に砂金堀りから転じて，男をたらし込んで金を巻き上げる女の意を生じ，sidetrack は鉄道の待避線に入れるの意から，さける，そらす，延ばす，握りつぶすなどの転義を生じた。

次に換喩 (Metomny) あるいはその一種である提喩 (Synecdoche) によつて意味変化を生じた語には，前者に属するものに bluecoat (巡査，南北戦争時代の北軍の兵), in the red (欠損して), in the black (もうかつて) の red, black があり，また Have you bought a *transportation?* の transportation の如く，抽象的な意味から，具体的な切符を示すようになつた語がある。後者

に属するものでは，rubbers（オーバーシューズ），nickel（5セント白銅貨）などがある。しかし，これらよりもつと密接にアメリカ文化の特色に結びついているのは，婉曲語法（Euphemism）と誇張（Hyperbole）による意味変化である。

不快なことまたは忌みきらうべき内容の明言を憚る場合に，差し障りのない語や上品な語を用いるのは，どの文明国語にも共通な傾向であるが，アメリカ語における婉曲語法の文化史的原因は，Marckwardt 教授が洞察してているように[1]，アメリカにおける女性の地位とアメリカ文化の中産階級的特性に求めることができる。婦人が稀少価値を持ち，経済的に恵まれる機会が多かつたことは，女性に大きな社会的勢力を与え，言語に関する感受性を磨き上げ，優雅な語法に貢献した。次に，中産階級は，礼儀作法に大きな関心を払うものである。Marckwardt 教授はこのことについて，"Within the history of modern societies it has always been the middle class which has manifested a greater and more serious concern for the proprieties than either the lower class, which has tended toward indifference, or the upper, which has been protected by the thick coat of self- assurance." と述べている。清教徒の植民者の中には圧倒的に中産階級の人々が多く，言語の適正には極めて強い関心を示し，profanity 禁制の立法や，Noah Webster の浄化聖書となつて表われた。

アメリカ英語における婉曲語の人の死に関するものには，coffin に代つた casket がある。これに関して，Pyles が "…to call a coffin a casket (that is, a jewel box) has no doubt confused many a youthful reader of the Merchant of Venice when he came to the famous casket scene…"[2] といつているのは，英国の用法の「宝石貴重品入れの小箱」とアメリカの「ひつぎ」との相違がかもす混乱を示すものとして興味が深い。また性的な意味合いから忌避されたものに stone がある。これに代つて小石の意に用いられた rock は結局意味領域を拡大したわけである。この語はさらに throw rocks at の意

(1) Marckwardt, A. H. American English. p. 122 ff.
(2) Pyles, T. Words and Ways of Amesican English. pp. 10 and 11.

の動詞の用法も生じた。

Euphemism と Hyperbole つまり Grandiloquence との間に明確な一線を劃することは困難であるが，実際的目的からすれば，人体，生殖行為，排泄物，冒とく，死亡と病気に関して作用する狭義の Euphemism と Grandiloquence に区別する方が便利である。これまで取扱つて来たのは,前者に属するものである。アメリカ英語において狭義の Euphemism は盛りを過ぎ，往時しばしば用いられた leg の婉曲語である limb も今は使用されず，pregnant, pregnancy も自由に用いられるようになつた。

平凡なことを誇大なまたは立派な語を用いて美化しようとする傾向も，すべての文明国に共通の性格であるが，アメリカにおいては，特殊の事情からこの誇張の原理は活潑に作用した。東から西へとたえず移動しつづけたフロンティア・ラインの存在は，たしかにアメリカの文化に独自な性格を与え，無限の影響をもたらすものであつた。西漸の根底に存在するフロンティアの精神は，確信，冒険，創造，進歩の特性を持ち，偉大さと力の観念が横溢していた。この新しい拡張の精神は，民間伝承としては，Paul Bunyan, Mike Fink などの超人的怪力を有する英雄を産み，人々の言葉には，大言壮語的な数多くの表現を創造した。splendiferous, bodacious, exflunctify, sumtotalize, elegantiferously などがその所産である。しかし，これらは語形成の問題であつて，意味変化の角度からは，別箇の面も観察しなければならない。フロンティアの影響もこうした一面だけではなかつた，単調で原始的な辺境の社会にあつて，多くの苦難や寒さと飢餓と闘つて無限の努力をしなければならなかつた開拓者たちには，彼等が後にした文明生活を想起し，平凡な環境を立派な威厳のある語で飾ろうとする努力が続けられたものと推測される。[1] 以上にあげたフロンティアの生活に特有なさまざまの精神的要素が，人間に共通の心理と交錯して，アメリカの文化を流れ，その言語に意味変化を来す要因となつたと考えられる。home がその情緒的要素から house の意に拡大され，homemaker (housewife,

(1) Marckwardt A. H. American English. p. 111.

housekeeeper), home-builder, home economics のような複合語が作られたのもその一例である。同様に engineer も意味領域を拡大し, patent engineer, equipment engineer, recreation engineer, casement window engineer などとさまざまな職業に従事する人を示すために用いられて来た。

狭義の Euphemism は廃れて来たが, これと近親な関係にある Grandiloquence はかえつて盛んになつて行く傾向がある。たとえば,「高価な」の意味の dear は聞くことが稀になり, 一般に expensive が用いられる。同様に, inexpensive が cheap に代つて広く使われる。hall は corridor, passage にほとんど取つて代り, entrance は entry を圧している。second-hand は忌避されて, used, reconditioned, rebuilt, repossessedの使用が盛んである。educational は informative や enlightening くらいの意に用いられ, custom-made, custom-built もほとんど expensive の意に用いられる場合が少なくない。exclusive を商店に関して適用する場合も, 単なる誇張に過ぎないことが多い。

誇張の傾向はアメリカの街路の名に関しても見受けられる。boulevard は, 元来ドイツ語の Bollwerk (bulwark) がフランス語に転化したもので, 中世城砦都市の城壁を破壊して, その跡に作られた都市の周囲をめぐる環状遊歩道を意味したが, 後にさらに幅員が広く, 数多くの並木を植えた街路をいうようになつた。アメリカにおいては, その語の優雅な連想から, その原義もまた派生した意味も考慮せず, "A broad, well-made street, avenue, or main road." (A Dictionary of Americanisms) の意となつた。avenue, は, フランス語の avenir (arrive) に由来し, 都市やその顕著な場所に達する道のことであつて, 英国では田舎の大邸宅の玄関に近づく道や, 一般に並木道を意味するようになつたが, アメリカでは, A Dictionary of Americanisms が, "A wide or principal street. Also a city thoroughfare, withont particular regard to its character, often one merely running at right angles to others properly called streets." と説明しているように, 大街路, 大通りに適用され, また都市によつては avenue と street に何等差異がなく,連想の良さから命名されたに過ぎないと思われる場合もある。また New York では

avenue は南北，street は東西に通じる街路に用いていることは有名である。

以上にあげた誇張によって意味変化を生じたさまざまな語は，結果として意味の悪化を招いたが，それとは逆に良化の傾向を示したものに cottage がある。この語は，英国の「労働者の住居」の意ではアメリカ英語においては一般に採用されず，アメリカ人には常に文芸的感傷的内包を持っていたいので，19世紀の終り頃から，避暑地などの別荘に適用され，いかに豪荘なものもこの名で呼ばれるようになった。[1]

(3)

意味領域をどの語よりも縮小特殊化しようとすれば，限定詞を用いる構造によるほかはない。red book, large apple に相応する単一の語はない。しかしこのような構造は，伝達される事柄が普通のことであれば，煩しく不便であるから，頻繁に用いられる場合には，その一部を脱落する傾向がある。つまり，労力節約のために了解可能な限度において，省略しようと工夫されるわけである。その結果としては，残された語は大きく変化した意味を持つことになる。

兵卒の意の private が private soldier の短縮語であることは周知の事実であるが，アメリカ英語にもその例が多い。すでに述べた語のうちでも，casket は burial casket の限定詞が省略されたものと見ることができ，また bluff は bluff land の主要語が脱落したものと考えられる。また corn が英国で穀物特に小麦を意味し，アメリカにおいては，とうもろこしを意味することはよく知られた事実であるが，これも初期の植民者たちがインディアンによって用いられているこの産物に接し，始めは Indian corn と称したものが，その重要性が顕著になるにつれて，修飾語を脱落したものと見ることができる。Mencken によれば18世紀の半ば頃までに単に corn と呼ばれるようになった。[2] ただし，A Dictionary of Americanisms は1608年の用例を挙げているから，

(1) Greenough and Kittredge. Words and Their Ways in English Speech. p. 319.

(2) Mencken, H. L. The American Language. p. 122.

corn が上記の時期よりずつと以前からこの意味で用いられていたことも明らかである。なお，それとは逆に今は歴史用語となつたが，小麦を English corn と呼んで区別をする用法もあつた。これらの事実を綜合すれば，Mencken の挙げている時期は，単一の語の用法が確立した時期を指しているものと考えられる。なお，corn は英米両国において，穀物の意から，別箇の特殊化をなした結果になる。

次に，商業用語では，アメリカで第一次世界大戦後急速に発展した通信販売業の mail order catalogue が，単に catalogue でその特殊の意味を表わすようになつた例がある。また，スポーツ関係では，アメリカの国技である野球の用語に短縮の現象を多く見受ける。まず試合が行われる野球場自体の ball park が単に park で表わされ，投手の投球では，drop ball が drop で，野手の名では first baseman が first base で (John Patchon was the *first base*.—A Dictionary of Americanisms.), 塁の名では first base が first で (With a man on *first*, even if the batter makes a clean single to left field, the runner will probably get no further than the second base.—McGrow.) 示されるなど枚挙にいとまがないほどである。

なお，first base が first に短縮されるように〔限定詞＋主要語〕の構造の主要語が省略されたものには，brick house が brick に，disk harrow が disk に，permanent wave が permanent に，postal card が postal に短縮されるなどさまざまな例がある。

次に，新しい専門語特にその省略語は，その表示する事物が古い事物に取つて代るような段階に達すると，ほとんど用いられなくなつて，古い語が新しい事物の意味を獲得する傾向がある。photograph の省略語 photo をほとんど駆逐した picture がその一例である。写真の意味を特に明確に表わすためには，photo より photograph の方がずつと多く用いられる。同様の例には auto をほとんど排除した car がある。

(4)

同義語はその間における意味上の競合(Semantic Rivalry)から，意味変化や意味喪失，語の駆逐の現象を生ずる傾向がある。たとえば，アメリカにおいて，18世紀の中頃までは，shop は小さな小売商店を表示するために用いられ一方 store はその起源の倉庫の性格をある程度反映し，大商店を意味したが，やがて，store の意が拡大して，shop の意にも用いられ，shop に全く取って代わるようになつた時期もある。[1] 後年において英国心酔の影響から shop は復活して用いられるようになつたが，特に大都会の leather goods shop, dress shop のように特定の商品を売る商店を指示し，また shop は（しばしば shoppe という優雅な綴字を用い）store より高級な感じを伝えるようになつた。[2] なお，特に store は販売をする店，shop は製造修繕をする店の区別も生じた。

形容詞の sick は18世紀末頃まで ill と同義語であつたが，英国では sick at the stomach, nauseated の意味を生じたため，病気の意の predicative の用法は聖書または古風の成句と小数の口語的語法に限られ，一般に ill を用いるようになつた。一方，アメリカにおいては，この語の古い一般的な意味で，be sick, feel sick のように predicative にも用いられる。また，アメリカにおけるこの両語の関係は，sick が普通の用語であつて，ill も用いられるが，形式張つており，その原義の bad, evil の意で，ill health のように適用されることが多い。また，Pyles が "Ilness to Americans denotes an extreme degree of indisposition; when one is ill, one is somewhat worse off than when merely sick."[3] と述べているのは特に She is recovering from a *long illness*. などにおける illness の用法を考察するのに参考になる。

また，fall は16世紀の半ば頃から autumn と同義語になつたが，競合関係

(1) Mencken, H. L. The American Language. p. 123. Suppl. 1 p. 217.
(2) Pyles, T. Words and Ways of American English. p. 9.
(3) Ibid. p. 21.

から英国ではこの意味に用いられることが少なくなつた。Horwill はこのことについて，"In Eng. fall sometimes=autumn, but only in some connexion where a suggestion of the falling of the leaves makes its use appropriate ; e. g. it might be found in a description of a country walk taken in October."[1] といつている。しかし，アメリカにおいては，fall が普通の用語であつて，autumn は時折り文語に用いられる程度である。最後に，apartment は NED によれば，17世紀の中頃から "A portion of a house or building, consisting of a suite or set of rooms, allotted to the use of a particular person or party." を表示していたが，18世紀の終り頃に形態論的な数の類推が影響し，single room のものを意味し始め，suite or set of rooms のものは flat か複数形の apartments で指示されるようになつた。アメリカ英語では，この語は古い意味で用いられている。しかし，Webster's New Collegiate Dictionary に "A suite or set of rooms, esp. one occupied as a dwelling; sometimes a "*single room.*" とあるように，時としては一室のものを指すことができ，明確を要する場合には one-room apartment とする。したがつてアメリカ英語におけるこの語の意味領域はイギリス英語よりも広い。さて apartment と共に flat もアメリカで用いられるが，apartment は flat より高級な場合が多い。John W. Clark が "And most Americans today, if they live in a flat, call it an apartment—and much more generally than thirty years ago."[1] と述べているのは，両語の意味上の差異に基いて apartment が flat に取つて代わる傾向もうかがわれて興味が深い。

Selected Bibliography

Bloomfield, Leonard. Language. London, Allen and Unwin. 1935.

Greenough, J. B. and Kittredge, G. L. Words and Their Ways in English Speech. New York, Macmillan. 1931.

---

(1) Horwill, H. W. A Dictionary of Modern American Usage.

(2) Partridge. E. and Clark J. W. British and American English since 1900. p. 246.

Horwill. H. W. A Dictionary of Modern American Usage. Oxford, Clarendon. 1935.

Kennedy, Arthur G. Current English. Boston, Gin. 1935.

Krapp, George Philip. The English Language in America. New York, Century. 1925.

Marckwardt, Albert H. American English. New York, Oxford University Press. 1958.

Mathews, Mitford M. A Dictionary of Americanisms. Chicago, University of Chicago Press. 1951.

Mencken, H. L. The American Language. New York, Knopf. 1949. 4th ed. Supplement I. 1945. Supplement II. 1948.

Palmer, L. R. An Introduction to Modern Linguistics. London, Macmillan. 1936.（神保　格，渡辺繁与，佐藤　誠共訳書「言語学紹介」（泰文堂））

Partridge, Eric and Clark, John W. British and American English since 1900. New York, Philosophical Society. 1951.

Pyles, Thomas. Words and Ways of American English. New York, Random House. 1952.

Sturtevant, Edgar H. An Introduction to Linguistic Science. New York, Yale University Press. 1947.

……. Linguistic Change. New York, Sterchet. 1942.

Ullmann, Stephen. The Principles of Semantics. Glasgow, Jackson. 1957. 2nd ed.

クレイギー著　松本淳訳「アメリカ英語の発達」研究社．1958.